

守られて300年 この緑を未来へ

風の 松原

風の松原に守られる人々の会

目 次

| | |
|-------------------------------|-------|
| 「風の松原」一里塚10周年を迎えて | 1 |
| 風の松原小史 | 2-3 |
| 風の松原 中心部 案内図 | 2-3 |
| クロマツ伐採計画地図 | 4-5 |
| 砂防林を守ってきた人たちの系譜 | 4-5 |
| 「風の松原に守られる人々の会」結成の動き | 6 |
| 「風の松原に守られる人々の会」設立総会の様子 | 7 |
| 会報「松風」からの抜粋記事 | 8-17 |
| 風の松原を取り上げた書籍などの紹介 | 8-17 |
| 今までも、これからも、松原に見守られて | 22 |
| あとがき | 裏表紙裏 |
| <資料> 大正期～昭和30年代の能代海岸砂防林 | 18-19 |
| 年度別会員数・会長名 | 20 |
| 会報「松風」バックナンバー目次一覧 | 20-21 |

表紙題字 中 川 七 郎 氏



風の松原中心部で、クロマツ純林(一部に広葉樹がみられるが)が残っているのはこの周辺だけ。
(ジョギングコース③番地点南側 2012. 7. 23撮影)

「風の松原」一里塚10周年を迎えて



マツ林の危機、かけがえのない先人の遺産を 守り抜くためにも、歩み続けよう

会長 安井 昭彦

「風の松原」は能代市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長14^{km}、面積760^{ha}、約700万本の人工黒松林が植生し、飛砂防備保安林・保健保安林として、厳しい自然から能代・山本沿岸を保全し、地域住民を護り続けております。

藩政期・明治・大正・昭和期と松林の保全活動に尽力された諸先輩のあとを受け継ぎ、昭和46年「砂防林を愛する会」、昭和62年「砂防林を活用する市民の会」、平成2年「風の松原を育てる市民の会」と目標が一段落するごとに再発足し、平成13年の「風の松原に守られる人々の会設立総会ご案内」をひもときますと、次のような趣旨・目的で設立されたことがわかります。

1 ねがい

「私たちの財産であり、誇りである風の松原」を未来に引き継いでいきたい。

2 現状は

広葉樹の侵入で松は圧迫され、松くい虫の北上で異常な状態になっている。

3 なんとかしなければ

このまま放置しては、やがて松林は衰退し、消滅の危機を迎えるだろう。

4 では、どうする

森林管理署(国)、秋田県、能代市が主体になってやってくれるだろうが、私たちも、やれることをやろう。

初期の活動状況は、松くい虫被害調査実施・ガイドマップの作成・小学校での説明会・植物観察会・県有林の間伐作業・樹種名札の取り付け作業・松原のクリーンアップ・薬剤樹幹注入作業・ニセアカシア芽欠き作業・林内散策マナー向上を呼びかける看板の設置・高校修学旅行団のガイド・・・。

能代市主催の「ガイド養成講座(平成18年・11回)」では、講師のほとんどを会員が引き受け、その後結成された「風の松原ガイドの会」(平成20年3月)の主力にもなっております。

現在の活動状況は県有林の林床改良作業・観察会・樹種名札の取り付け・ニセアカシア萌芽除去作業・研修会等であります。なお会報「松風」(年2回)は創成期より発刊、活動状況等が一目瞭然で22号の発行に至っています。

この「風の松原」が全国に広がる松くい虫の北上被害・土壌の富栄養化に伴うニセアカシア・広葉樹林の侵入等により深刻な問題となっております。これまで恩恵を受けるばかりであった市民に「風の松原を守ろう」との声が広がり、平成15年「風の松原を守る市民ボランティア大会」が開催されました。風の松原を保全・整備する方向へと初心を忘れることなく歩み続ける気運を更に拡大し、諸活動を通して先人の遺産の意義と技を伝え、後世に確実に継承していく使命を、私たちは担っているものと思います。今後ともよろしくご協力のほどお願い致します。

平成13年に北羽新報社から出版された『海岸林を守る』(伊藤忠夫・近田文弘共著)は本会の活動を進める上で大変役立ちました。ここに改めて感謝の意を表します。

本会の受賞歴

- | | | | |
|---|--------------|-------|-----------------------------|
| 1 | 2004年(平成16年) | 7月29日 | 森林病虫害等防除活動優良事例コンクール奨励賞受賞 |
| 2 | " | 9月25日 | 秋田県環境大賞受賞(県知事表彰) |
| 3 | 2008年(平成20年) | 6月15日 | 第59回全国植樹祭で秋田県ふるさと水と緑貢献賞受賞 |
| 4 | 2012年(平成24年) | 6月2日 | 第23回「みどりの愛護」のつどい功労者国土交通大臣表彰 |

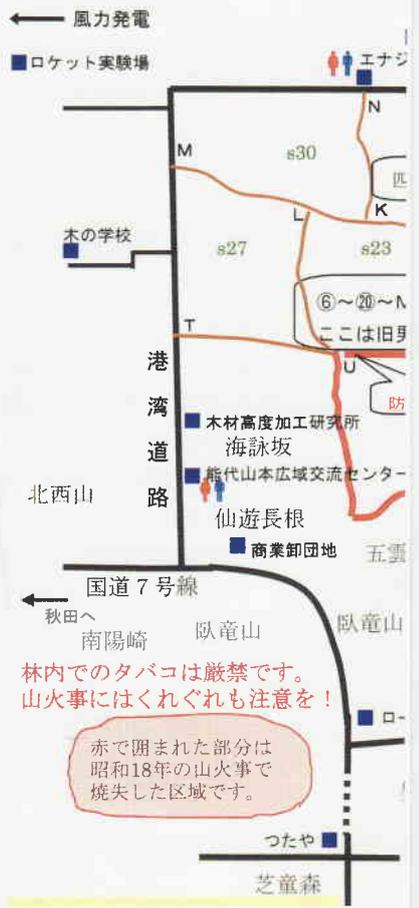
風の松原小史

| | | | | |
|-----|-------------|--|--------------|---|
| 藩政期 | 1700年頃 | 能代は飛砂で住居や耕地が埋まる被害が多く発生し、秋田藩でも飛砂防止対策に着手。 | 1892年 (明治25) | 能代小林区署創設。(現米代西部森林管理署) |
| | 1711年 | 廻船問屋越後屋(渡辺)太郎右衛門(6代目)、自費でクロマツを植栽。その後、庄屋越前屋(村井)久右衛門も植栽。 | 1920年頃まで | 砂防林の一部が能代港町の簡易共用林となり、枝条・落葉の採取や牛馬の放牧、砂丘の掘り返しなどにより飛砂の被害を受け、クロマツの枯死が見られ、大森稲荷神社鳥居が飛砂に埋まる。 |
| | 1740年頃 | 医師長尾祐達、飛砂防止のために植林を提唱。(長尾祐達が何代目かは不詳) | 1921年 (大正10) | 後谷地で国営造林事業開始。 |
| | 1744年頃 | 能代給人白坂新九郎、鈴木助七郎が砂留役となり、長尾祐達の遺志を継いで砂留造林事業を継続。 | 1928年 (昭和3) | 埋めわら工、つい立工によるクロマツ造林始まる。 |
| | 1764年頃から | 浅内の原田五右衛門、福田の野呂田八郎右衛門、河戸川の大塚甚十郎、長崎の袴田与五郎など砂防林を造成。 | 1932年 (昭和7) | 西山下(現ロケット実験場付近)で県営造林事業開始。 |
| | 1797年 (寛政9) | 郡方砂留吟味役栗田定之丞、藩内海岸の砂防林造成に着手。 | 1943年 (昭和18) | 旧展望台付近より出火。16ヘクタール消失。翌年補植。 |
| | 1822年 (文政5) | 賀藤景林、能代木山方(兼務)となり、砂防林造成も担当。 | 1944年頃から | 航空燃料のため町内会等を動員して松根を掘り、松根油製造を開始。その跡地が「風の松原のアリ地獄」として残る。 |
| | 1836年 (天保7) | 賀藤景琴、父の業を引き継ぎ、その後、松30万本植栽。 | | |



風の松原中心部案内

風の松原に守られる人々

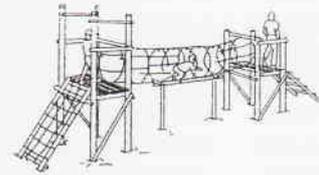


Google Earthで上空20kmから鳥瞰した風の松原全体図(2007年)

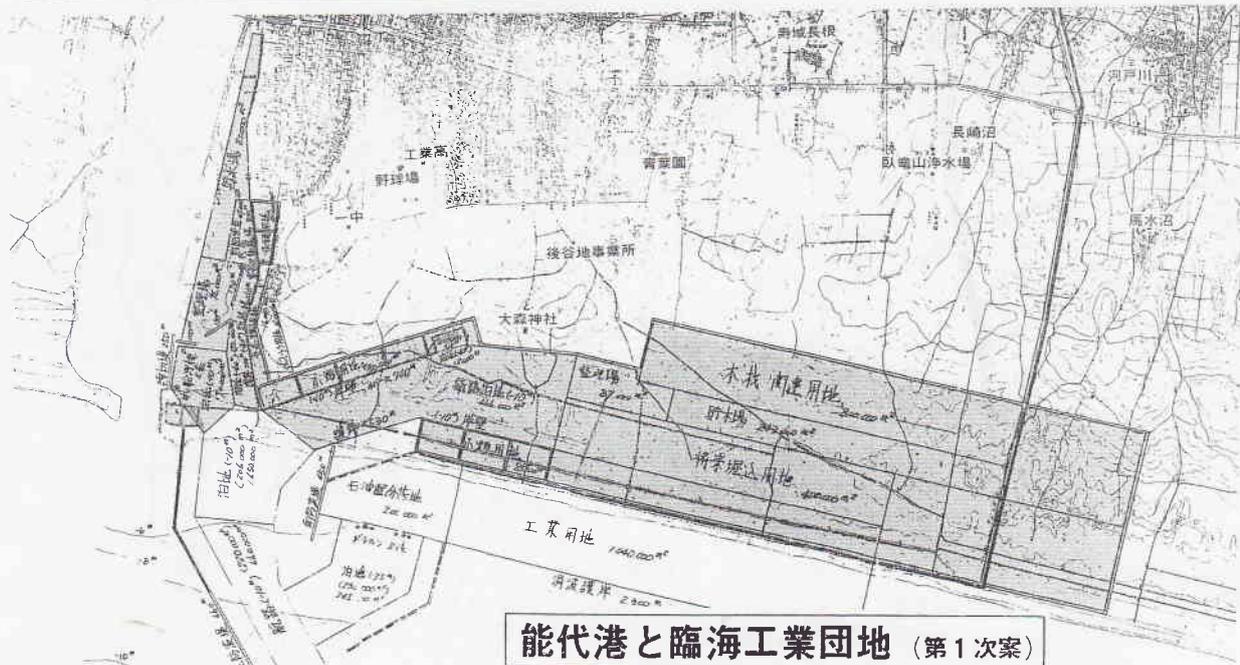
能代海岸砂防林は、秋田県や能代市の開発計画案が昭和45年末に相次いで発表されたことによって大きく変化することになった。本会が設立されることになった源泉もここにあった。

- 1970(S45) 秋田県第3次総合開発計画の策定が始まり、12月概要がまとまる。
(後谷地砂防保安林の2/3を伐採する計画)
- 1971(S46) 市民有志が「砂防林を愛する会」結成
- 1977(S52) 面積約20ヘクタール、クロマツ8万本余を伐採
- 1978(S53) **砂防林クリーンアップ始まる** (主催：能代青年会議所)
- 1980(S55) 保健保安林に指定される (251ha)
能代市が砂防林内に散策路・ジョギングコースを設定
- 1981(S56) **案内板設置** (能代青年会議所30周年記念)
- 1987(S62) 能代市による砂防林の整備始まる (251ha)
(こいの広場やあづまや・トイレ・時計塔 等)
「能代海岸砂防林を活用する市民の会」設立
砂防林の愛称が「風の松原」と決定 (能代市が募集)
- 1989(H1) 能代市が散策路、サイクリングコースを整備
- 1990(H2) 「能代海岸砂防林を活用する市民の会」が発展的に解散し、「風の松原を育てる市民の会」設立
- 1996(H8) 「風の松原を育てる市民の会」活動休止
- 1999(H11) 風の松原で松くい虫被害発生
- 2001(H13) 「風の松原に守られる人々の会」設立
- 2002(H14) 「まつぼっくり風の会」設立 (能代火力発電所職員有志で結成)
- 2003(H15) 「風の松原を守る市民ボランティア大会」開催 (主催：能代商工会議所)
- 2004(H16) この年から「風の松原を守る市民ボランティア大会」の主催を「風の松原ボランティア協議会」が担当し、以後毎年開催されている。
- 2011(H23) 「風の松原に守られる人々の会」10周年
- 「能代風の松原プロジェクト」設立
- 2012(H24) NPO法人「能代松原保全研究会」設立

①風のトンネル



1995(H7)年6月1日付「風の松原だより」(「風の松原を育てる市民の会」の会報)第5号に掲載されたフィールドアスレチックの遊具の一つ



能代港と臨海工業団地 (第1次案)

< 1970(S45)年12月12日 北羽新報 第2面 >

昭和45年12月12日北羽新報で報道された木材工業再開発構想の第1次案。この案では実際には砂防林の大部分が伐採されることになるので「松林を切る切らぬ」で大問題となった。

保全育成、市民の手で 風の松原



「風の松原」を守り、育てるボランティア団体発足の動きが始動する(昨年4月のクリーンアップ)

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

能代市の有志 後世へ黒松林継承を 近く準備 会の集い 広範に参加呼びかけ

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、



商洋合板を積載して入港したシルバークエスト号(能代港で)

能代港一月初から、過去最高の二倍に達した。同港は、一月三日から十四日までの間、四隻の船舶が接岸した。船名はシルバークエスト号(六千五百五十五トン)船種はバナナ・バナナ船、マレーシア・三井物産(千九百三十三トン)を積載して入港した。同日午後、作業を終えて、天候の回復を待って四日午前以降、離岸する予定。同港の月の外航船の入

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

「風の松原」は、同市沿岸部に広がる海岸砂防林で、延長約十四キロ、幅約一キロにわたる。約七、八百本の黒松が植生している。二十世紀後半に、

北羽新報

発行所 北羽新報社
〒016-0891 能代市西通町3の2
電話(代表) 0185-54-3150
電話03-3542-3342
東京支社 電話022-273-0955
秋田支社 電話018-823-4640
三ツ井支社 電話0185-73-4036
仙台支社 電話0185-54-3155
印刷部 電話0185-54-3158

ROLEX
79174(G)
オイスター・パーpetual
レスター・デイトナ
クロノメーター
ダイヤモンド・シルバークエスト
スチール・ケース
ホワイトゴールド・ダイヤル
¥550,000
蜂屋

きょうがさびたといわれる。鬼神の目もあき、都は、その豆を「豆田」として、

浄城雑記

「節分の豆まき」
節分は、太陽の運行が基準であるから、節分の期日は一定していません。旧暦正月の前節分が来ることもあった。大体は旧暦正月と正月の間に節分になることが多い。節分の行事が一部で、

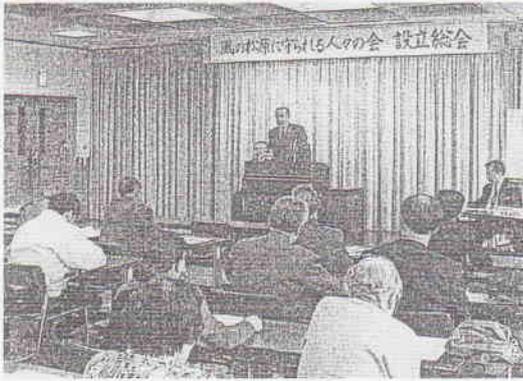
1月の外航船は14隻

能代港一月初から、過去最高の二倍に達した。同港は、一月三日から十四日までの間、四隻の船舶が接岸した。船名はシルバークエスト号(六千五百五十五トン)船種はバナナ・バナナ船、マレーシア・三井物産(千九百三十三トン)を積載して入港した。同日午後、作業を終えて、天候の回復を待って四日午前以降、離岸する予定。同港の月の外航船の入

有効求人3カ月ぶり好転

ハローワーク能代の「就職紹介業務主要指標調査」によると、十二月の有効求人倍率は二カ月ぶりに好転し、前月から〇・〇二四(二割四厘)から〇・〇二五(二割五厘)に上がった。求職の減少幅が、求人の減少幅を上回った。小物販による倍率の上昇で、またまた雇用情勢は厳しい状況が続いている。十二月の有効求人倍率は、前年同月の過去三カ月の求職者数(合計)は

風の松原 民間ボランティア誕生



活動方針、会則、役員陣を決めて正式に設立された「風の松原に守られる人々の会」

設立総会には、同会の趣旨に賛同した市民五十五人が出席した。設立前

集計では八十三人となった。度出席したため百人を超える体制でスタートを切るようになった。

総会審議前に来賓の山下秀勝・東北森林管理局米代西部森林管理署長があいさつ。「風の松原は多くの先人、市民の大切な財産。みなさんが守った松原を守り育てよう」と行動に移されたことが、国としても大変ありがたい」と会設立の意義と期待を語った。

この後、議事に入り、同会の設立に関する趣旨説明と方針、さしその

能代市の「風の松原」で民間ボランティアの展開を目指す「風の松原に守られる人々の会」(略称・風の松原の会)が二十五日、正式に設立した。この日、同市元町の能代商工会館で開いた設立総会で活動の趣旨を確認するとともに今後の方針、計画を決めたほか、会則や役員構成なども承認したもので、国や県、市など公共的な管理業務機関との協力を前面に出した市民運動がいよいよ本格的に始動することになる。

学習や観察、監視を 広範な市民らで「守られる会」

具体的な形となる活動計画について、同会発起人会側が提案して賛意応答を行った。

活動については「風の松原への愛護心の高揚と学習」「観察モデルコースの設定と整備」「監視パトロール」の三本柱を定めた。観察・勉強会の開催やガイドの養成、風の松原散策モデルコースの設定や説明札の設置など、さまざまな視点から「貴重な財産・風の松原」について、会員や市民、風の松原を訪れる多くの人々がより親密に触れ合うことができるようにサポートすることにした。また、「松くい虫」「ゴミ不法投棄」といった風の松原の豊かな自然を揺るがす「脅威」への監視パトロールも重要項目とした。

起人会代表の梅田市美さんを選出したほか、副会長一人、監事二人も合わせて選んだ。任期は二年。風の松原の会の新役員陣は次のとおり。

- ▽会長 梅田市美▽副会長 福司和夫、浅田嘉美▽監事 加藤キヌ、浜松正次▽事務局 佐藤幸雄

風の松原に守られる人々の会 会則(抜粋)

第1条(目的・趣旨)

この会は、「私たちの財産であり誇りである風の松原」を未来に引き継ぐことを目的とする。

この会は、ボランティアの範囲でできる活動をするものとする。

第2条(名称及び会員)

この会は、「風の松原に守られる人々の会」略称(風の松原の会)と称し、この会の目的、趣旨に賛同する者をもって会員とする。

第3条(活動)

この会は、目的達成のため広く人々に呼びかけ、また森林管理署(国)、秋田県、能代市等と密接に協力し合って次の活動を行う。

- ① 松原の恩恵を享受し、理解を深めるための観察会、研修会などを行う。
- ② 松原の生育を助け、保護・保全のための活動をボランティアの範囲で行う。

(第001号～第003号は縦書きでした)

5人々の会

平成13年10月25日

松風

会報・第001号

会設立からの歩みをたどる

1. 講演会で風の松原の現状を

講師に米代西部森林管理所長の山下秀勝氏
 五月十八日(金)、演題は「風の松原の管理経営」で講演会を開催し、参加者は三十一名、中央公民館の会場で学び合った。
 講演では、国有林の管理運営は、平成十年に方向転換が行われ、公益的機能が重視されるようになったこと、更に後谷地国有林の治草と現状、松食い虫による被害や利用者のマナー指導などについて話された。

2. 黒松植林の歴史講演会

講師は能代市史編集委員長の古内龍夫氏
 六月二十三日(土)、演題は「越後谷・越前屋・そして定之丞・豊林」砂防林に尽くした人々、一、参加者二十六名、中央公民館で開催した。講演では、今から三百年ほど前から始まった砂防松の植林の歴史を詳しく解説していただいた。能代の富裕な町人・能代給人・村の肝煎・郡方役人・木山方役人の人々が、それぞれ苦勞と失敗を重ねて植林した松林が町並みを守り、現在の「風の松原」につながってきていることが理解された。それにもない、市街地に残る老齢黒松の保護も考え、いく必要があると痛感させられた。

会の設立が平成13年3月25日。第〇〇一号(創刊号)から第〇〇三号までは縦書きでした。しかも最初の見出しから番号付きでした。九九九号までも続けようという気持ちだったのだらうと思います。現在でもその方法を踏襲しています。会報「松風」のバックナンバー目次を最終ページに掲載しています。本会がどのような活動をしてきたかをご覧ください。



風の松原を取り上げた書籍等の紹介『海岸林を守る』は本会の活動の重要な参考文献となりました



『海岸林を守る』
 伊藤忠夫・近田文弘共著
 2001(H13)年11月10日北羽新報社発行
 定価1500円

<内容>
 本書は2001(H13)年1月から8月までの30回にわたって「風の松原講座」として北羽新報に連載した記事を再検証し、一部加筆してまとめたものです。土壌の富栄養化による広葉樹林化を「松原の危機」と捉え、科学的・学術的に解説した書。現在も北羽新報社で発売中。





風の松原不思議いろいろ

- ア 湧き出る霧のクロマツが多数見られる。
- イ クロマツと一緒に結んだ砂粒が名残を留めている。(スエノキ、アキグミ)
- ウ 所々に大きな砂丘が見られる。
- エ 砂丘なのに水溜りが見られる。
- オ 大規模な人工砂丘が見られる。
- カ 海岸の人工林なのに山地の植物も見られる。
- キ 樹皮が片面だけつるつるのクロマツが見られる。
- ク シモコシ(キンダケ)、ショウロなど以前にはあったキノコが見られない。
- ケ いろいろな野鳥に出会える。
- コ ノワサギ、キツネがいるのに、なぜかセミが少ない。
- サ 霧、池に集まってくるヒキガエルはどこにいるのだろうか。
- シ 散歩の人は多いがゴミは少ない。

写真目録以外の観景点

- ① 松樹林地帯(野崎中)
- ② 林内最大径のクロマツ
- ③ いこいの広場
- ④ サダケ野生地
- ⑤ 榎木(樹と大砂丘(海岸側))
- ⑥ 巨樹クロマツ林
- ⑦ 東家木の並木
- ⑧ 最大径巨樹(ケヤキ)
- ⑨ 豊林神社
- ⑩ サイカチ
- ⑪ マルバヒツバカマ

◎ついに発刊！「風の松原ガイドマップ」

支援助成金 12万3千円が交付される

昨年の6月、県のボランティア・市民活動支援助成金の募集に応募していたが、当会の活動が認められて、123,000円が交付された。その資金で、かねてより望まれていた「風の松原ガイドマップ」1,000部が作成され、このたび完成した。広く市民が親しみをもって活用できる、イラストや写真入りの、わかりやすく工夫されたもので、詳しくは総会で説明される予定になっている。乞うご期待！

当時の会報には写真がなく、文章だけで説明している。大きさはA3判。持ち歩く時に折りたたんだ形は16ページ下段左に掲載したが、開くとこのように思わず散策してみたいと思わせる配置になっている。

右上に「風の松原不思議いろいろ」として「砂丘なのに水溜りが見られる」とか「海岸の人工林なのに山地の植物も見られる」など12の不思議が挙げられている。

風の松原を取り上げた書籍等の紹介 浅野ミヤさんは本会の会員

『動く砂山 能代の砂防林物語』
 作：鈴木喜代春
 絵：太田 大輔
 発行：あすなる書房 児童書
 発売：1986(S61)年12月15日
 <内容>
 もし、能代海岸の砂防林がなかったら、能代の街は100年以内に砂でうまっていただろう。今から約270年前、1人の商人が砂の被害に苦しむ能代の街を救うため、砂防林づくりに立ちあがった。人間の知恵と自然の力の物語。



『私たちの風の松原物語—語りつぐ能代海岸砂防林の近代—』
 著者：浅野ミヤ
 発行：1999(H11)年11月15日
 「秋田のこだま」編集部 非売品
 <内容>
 地域の生活記録サークル誌「秋田のこだま」に連載された聞き書き記録を加筆・再構成して自費出版した書。「明治の頃の砂防林」「戦後の後谷地と富樫兼治郎氏の業績」「戦中から戦後の後谷地国国有林」の3部構成となっている。

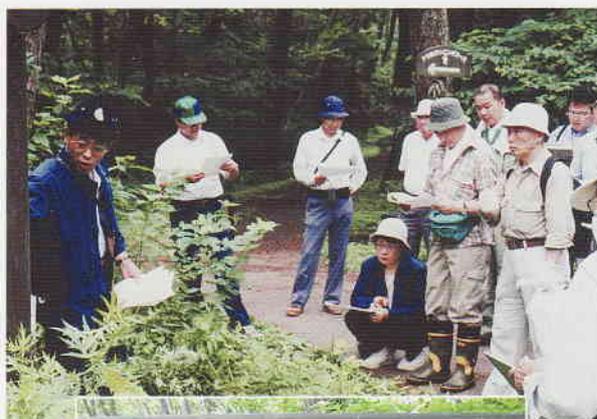
(見出し番号は創刊号からの通し番号です)

10 地帯区分試験地の研修

講師に米代西部森林管理署長の橋本佐内氏

7月18日(木)、試験的に4種類の植生に区分された地域の研修に、会員の他、東北電力能代火力発電所の遠藤幸雄所長、同所所員の海岸林保全グループまつぼっくり風の会会員、合わせて26名が参加、橋本氏が施行に至った経緯と狙い、4つのエリアの試験手法、モニタリングに3年～5年を想定し、じっくり経過を見ていくことなどを解説された。

第003号の記事はここで終わっているが、橋本所長さんは看板を指さして説明しているようだ。参加者の頭上にトリムランニングコースの矢印の付いた看板が1枚見える。この看板の場所は陸上競技場側入口から250m入った地点。3ページの案内図のE地点。そこには現在もこの看板が立っている。看板に4つのエリアの説明が書かれている。この看板の設置は平成14年3月。



作業前



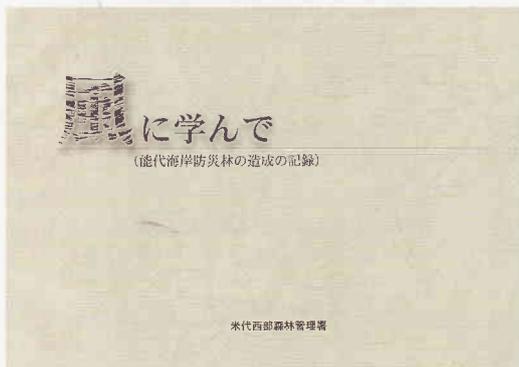
チップ用(7cm以上)と廃棄物に分類

◎ 県有林間伐作業

指導は農林事務所林務課長金沢千昭氏

7月10日(木)～8月9日(金)まで延べ日数6日、まつぼっくり風の会も参加し、延べ人数68名で、ロケット実験場から6km南の樹齢15～16年、樹高4.5～6.5mの県有林1ヘクタールの間伐が達成された。(中略) 金沢課長は、県内の松くい虫の現状とその対策について説明され、被害拡大防止に民間のマンプワーが不可欠とし「安全に、確実に、休憩を十分に取しながら、松の手入れを」と指導された。

風の松原を取り上げた書籍等の紹介



写真集『風に学んで 能代海岸防災林の造成の記録』

発行：2001(H13)年3月

東北森林管理局米代西部森林管理署

<内容>

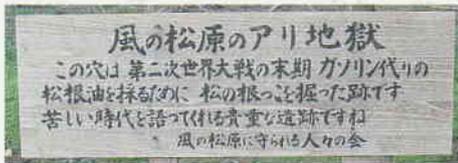
元能代営林署職員であった故鈴木重孝氏が撮影した写真を中心に134枚の写真を使用し、能代海岸の後谷地国有林(302ha)と大開浜国有林(41ha)で昭和30年代に行われた海岸防災林の造成技術を説明した写真集。

<1 海岸林の状況の推移> <2 海岸防災林の造成技術> <(附) 海岸防災林の造成技術の説明>の3部構成となっている。

(見出し番号は創刊号からの通し番号です)

22 松根掘り場跡説明板を設置

5月7日、サン・ウッド前の松根油を採取した根掘り穴前に説明板を設置した。ここは昨年11月にクリーンアップした際に「何の穴か、説明が必要では？」との意見に基づいたもので、第二次世界大戦の歴史として能代に残る史跡の一つになった。



風の松原に大小の凹地が見られるのは、終戦直前に松の根っこを掘った跡である。太平洋戦争の末期、航空機燃料の不足を補うため、松の根から油(松根油)を抽出し、それをガソリンの代用品として役立てようと当時の軍部の苦肉の策の痕跡である。松根油は実際には使われなかったようだ。「風の松原のアリ地獄」の名称は、平成14年に取材した秋田魁新報の記者が名付けた。

29 いこいの広場周辺の灌木除去

10月8日(水)から3日間は、いこいの広場周辺の灌木除去に取り組んだ。これも山本地域振興局のオリジナルプラン補助金を活用したもので、除去した灌木類は風の松原外に搬出しなければならないので白神森林組合に委託することにした。

8日は16名の参加者で、ナタやノコギリを手にしながらかぶに入り、胸まで生い茂っているノイバラや灌木を切り倒してまとめる作業に取り組んだ。10日(金)には18名が参加し、12日(日)は17名の参加者で9時30分からスタートした。特に日曜日には、湊城第三小学校の児童が5名も加わり、和気あいの仕事になった。「この松をみんなの力で未来まで」のオリジナルプランに合致し、まさに未来を担う子どもが参加したことは嬉しいことであった。

中に入れなほどであったやぶも、この作業によってきれいになくなり、参加者たちは、やぶと格闘した充実感に満ちあふれていた。



1945(S20)年 能代工業学校生徒が勤労奉仕で松根掘り作業(現在の能代工業高校グラウンド) (能工高創立60周年記念刊行『伝統は生きている 盤若の丘に60年』より)



風の松原を取り上げた書籍等の紹介



海岸砂地造林事業
五十年の歩み
砂防林を愛する会 著
昭和四十六年十月二十二日 発行



能代市砂防林の歴史
鈴木重孝 著
昭和六十二年十月一日 発行



松林が危ない!
東北・松くい虫被害最前線
河北新報社編集局 編
二〇〇三年十一月三十日 発行
無明舎出版 一〇〇〇円

36 松原保全に1,000人集合

風の松原を守る市民ボランティア大会

5月13日、今年から「風の松原ボランティア協議会」(梅田市美会長)主催になった風の松原を守る市民ボランティア大会が開かれた。

この日は青空が広がり、高校生や一般市民、親子連れや各種団体会員ら約1,000人が参加し、マツノマダラカミキリの幼虫がいる可能性のある松の枯れ枝を搬出したり、ごみの収集に汗を流した。

参加者は、第1ブロックの国有林トリムランニングコース、第2ブロックの国有林船泊まり周辺、第3ブロックの県有林風力発電所東側の3カ所に分かれて作業に取り組んだ。

このうち第1ブロックでは市営陸上競技場前の広場で開会式を行い、梅田会長が「市民が風の松原に入ることは大変意味のあること。作業の合い間をみてクロマツの木々と対話をし、声を聴いてマツの木のカウンセラーとして動いてほしい」などと呼びかけた。

また、来賓の寺田秋田県知事、豊沢能代市長があいさつし、「白神山地に匹敵する自然をどうしても残したい」「心を合わせて風の松原を守ろう」と訴えた。

作業概要説明の後、参加者はグループ毎に防風ネットを利用した特製担架やごみ袋をかかえて松林の中に踏み込んだ。松の枯れ枝が思ったより多く、特製担架がすぐにいっぱいになった。トラック駐車場に搬出すると、4トン積みトラックが待機しており、約20台分の枯れ枝が処理先のバイオマス発電所に次々に移送された。

枝集め、ごみ拾いと心地よい汗を流しての作業の合間に、たくましく空に伸びるクロマツを見上げると、能代市街地を松原が守ってきたと知ることができる。

クロマツが日本海から吹き寄せる潮風と飛砂を防ぎ、耐えた年月は、幹を斜めに傾けた姿とその樹齢に刻み込まれている。



梅田会長のあいさつ(会報007号からコピー)



翌年2005年の開会式の様子(会報009号)



枯れ枝を特製担架に集める(2010年)

「風の松原を守る市民ボランティア大会」は初年度(2003)は能代商工会議所主催で6月1日と6月8日の2日間実施された。翌年(2004)からは「風の松原ボランティア協議会」の主催となり、年1回となって現在も続いている。

風の松原を取り上げた書籍等の紹介



『松に聞け 海岸砂防林の話』

著者：畠山義郎
1998(H10)年7月10日発行
日本経済評論社 定価1500円
＜内容＞

旧合川町町長を10期務めた著者が、名もなき人々の手で植えられた秋田・庄内・津軽の海岸砂防林を歩き、人間と木々の未来を語る書。「海岸砂丘のなりたち」「津軽の先人たち」「秋田の先人たち」「庄内の先人たち」「由利の先人たち」等。



『秋田の砂防林その1 緑の遺産』

秋田県秋田総合農林事務所林務課編
2001(H13)年2月
＜内容＞

その1には八森・峰浜・能代・八竜・若美・男鹿が含まれている。

1983(S58)年の日本海中部沖地震に伴う津波による被害の様子をカラー写真で説明しているのがわかりやすい。

46 ニセアカシアの芽欠き作業

6月22日(水)今年初めての試みとしてニセアカシアの芽欠き作業が行われた。この事業は今年度の総会で初めて提案されたものである。

提案理由は「昨年度行われた健康づくりのみち工事によりニセアカシアの木もたくさん切り倒された。他の木と異なり、ニセアカシアの性質は『ニセアカシアを切ると十倍返しの目に遭う』と言われるほど繁殖力の強い木なので、そのままにしておくと松林内がニセアカシアで一杯になり、成長も早いので太陽光を一身に集め、クロマツの生育が脅かされてしまうから」である。またニセアカシアは土地を肥やすので肥料木と呼ばれている。この点でも痩せ地を好むクロマツの大敵なのです。

当日は会員19名、能代火力のまつぼっくり風の会6名、一般5名と計30名が参加し、福司副会長が陸上競技場脇の切り株の前で、ニセアカシアの特性と芽欠きの方法を説明してから、鷺尾班、秋林班、福司班の3グループに分かれて健康づくりのみち(セラピートレイル)の両側のニセアカシア芽欠きに取り組んだ。

実際に軍手で掴むとすぐに新芽を引きはがすことができた。この切り株に30本ほどの新芽が40センチにも伸びていたが、トゲも柔らかく痛くはなかった。トゲはお盆を過ぎる頃から固くなるのだという。

ニセアカシアは芽欠きをしても、しつこく新芽を出してくるので、これからも年2回の芽欠きを根気強く数年間は続けていく方針である。



福司さんがニセアカシアの特性を説明



芽欠き前

芽欠き後

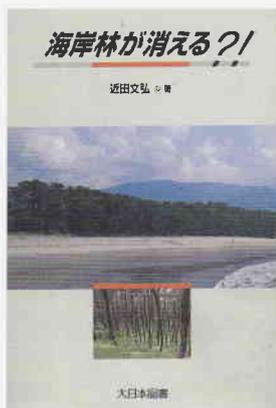


50 「風の松原を大切に」看板設置

8月10日設置。今年になって松原内でタバコを吸ったり、ゴミを散らかしたりということが目立ってきたので、米代西部森林管理署や山本地域振興局にお願いしていたが、本会の費用で能代市の用地に看板を設置した。場所は長慶寺向かいの大森稲荷神社入口鳥居脇。



風の松原を取り上げた書籍等の紹介



『海岸林が消える?!』
2000(H12)年11月25日刊
著者：近田文弘
発行：大日本図書
＜内容＞
著者は、各地域で果たしている海岸林の役割を調べ、長い間苦心してきた植林の歴史を振り返りながら今の問題点を探り、改めて海岸林の意義・役割について考えます。



『緑の衝立』
著者：柴山芳隆
(元能代北高教諭)
発行：2004(H16年)5月25日
文藝書房刊 1300円
＜内容＞
かつて能代北高校で国語教師だった著者が、日本海沿岸に長大な砂防林を造成して国土と住民を守った栗田定之丞の苦闘を描いた長編小説。

54 修学旅行ガイド

千葉市の千城台高校2年生が10月24日(月)、修学旅行で能代山本を訪れ、能代市で風の松原散策や、八森町の留山でブナ林散策、峰浜村でハーブグッズ製作、八郎湖でのバスフィッシングなどを体験した。

このうち風の松原にはコース名「風を感じてエネルギーとなる」の5名を皮切りに、4班に分かれて約50名の生徒が訪れた。そのガイドを本会の福司、秋林、小林が担当した。

昼食はいこいの広場でのきりたんぽ体験であったが、福司副会長は松原だけでなく、きりたんぽの具材の説明もして能代PRの役割を果たしていた。



61 風の松原バードウォッチング

4月29日朝6時～7時半。今年度最初の活動となるバードウォッチングが行われた。今回は移動時間を少なくして小鳥の声や姿を探すことにポイントをおいて実施。講師の渡辺進さん(会員)から説明を受けた後に2グループに分かれて出発。池のほとりでのまとめの会では22種類の姿または鳴き声を聞いたことが報告された。その直後にオオルリが現れて長時間私たちを楽しませてくれた。参加者数は27名。昨年に比べて子どもたちの姿が目立った。



84 講演会 森の清しさを探る

5月17日(木)10:00～12:00 今年の本会の企画である講演会がサン・ウッド能代で開催された。参加者は38名。講師は植物天然成分研究の国内第一人者である木材高度加工研究所所長谷田貝光克先生。

演題は「森の清しさを探る」。緑深い森に入ると気分がさわやかにリフレッシュする。その気分を快適にする木の香りを学問的に解明し、カビや細菌の繁殖を防ぐ力、害虫を抑える力、ホルムアルデヒドなどの有害物質を除去する力などを説明して、木の香りで快適な生活ができることをお話しになった。

講演会と森林浴のお知らせ

疲れた体をリフレッシュできる手軽な自然療法
講演会と森林浴の**お知らせ**

主催：風の松原に守られる会

講演会
日時：5月17日(木) 午前十時～十二時
場 所：サン・ウッド能代 第1講義室
講 師：森の清しさを探る 谷田貝光克先生
講演内容は、植物天然成分研究の国内第一人者、木材高度加工研究所所長谷田貝光克先生から、木の香りについて詳しく説明し、カビや細菌の繁殖を防ぐ力、害虫を抑える力、ホルムアルデヒドなどの有害物質を除去する力などを説明し、木の香りで快適な生活ができることをお話しする。

森林浴
日時：5月25日(金) 午前十時～十一時半 (雨天中止)
場 所：サン・ウッド能代公園
参加申し込み方法
講演会・森林浴ともに、参加費は無料です。講演会・森林浴ともに、申し込みは不要です。講演会・森林浴ともに、申し込みは不要です。講演会・森林浴ともに、申し込みは不要です。

申し込み先：風の松原に守られる会 事務局
能代市一本木2-2 森の館2階 電話：0952-33-1111 FAX：0952-33-1111

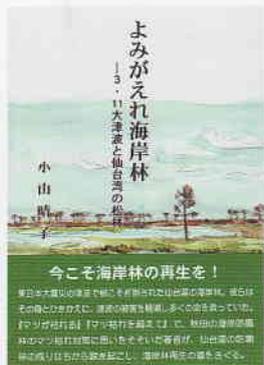
秋田のマツ枯れに心を痛めた著者が海岸林の再生を願う3部作



『マツが枯れる』
2004(H16)年11月刊
定価1000円



『マツ枯れを越えて』
2008(H20)年11月刊
定価1200円



『よみがえれ海岸林』
2012(H24)年7月刊
定価1000円

著者：小山晴子
現在は仙台市在住
出版社：秋田文化出版
＜内容＞
著者はかつて秋田市の中学校に勤務。拡がる松枯れを観察する中でカシワに注目、松林のこれからについて考察した。昨年の東日本大震災での松林の津波被害をまのあたりにし、海岸林のこれからについて考える。

104 「火の用心」の立看板設置

風の松原地内でたばこの吸い殻のマナーが悪く、山火事防止対策の声が多かったので、本会では平成17年4月に米代西部森林管理署長、山本地域振興局長、能代市長宛に要望書を提出したが、改善されず現在に至っている。

今回森づくり税申請に関連し、米代西部森林管理署・山本地域振興局と個別に協議の結果、6月中旬に風の松原地内5箇所にて火の用心の立看板を設置した。



日和山あづまや
付近にも設置

127 植物名札取り付け作業

7月17日(金)午前9:30~11:30まで植物名札取り付け作業を行った。一昨年までは樹木名だけだったが、昨年からは散策路脇の植物名にも拡大。風の松原では1~2箇所で見られないゴヨウアケビなど、新設・補修合わせて35箇所設置。15名参加。



146 越後屋太郎右衛門の松に薬剤散布

本年度の予定にはなかったが、7月6日(火)能代公園テニスコート脇の、越後屋太郎右衛門が植えたと言われる松の幹に何箇所かマツノマダラカミキリが空けたかと思われる穴が見つかったので、緊急に薬剤散布を実施した

147 組パネル展示

能代の砂防事業開始300年の前年となる今年、秋田県水と緑の森づくり税の助成を受けて作成した組パネル「近代風の松原のできるまで」の展示が行われている。これまでに展示会を開いた学校は、竹生小学校(6月4日~11日)、東雲中学校(6月11日~18日)、向能代小学校(6月18日~30日)、浅内小学校(7月8日~15日)、能代南中学校(7月15日~23日)。

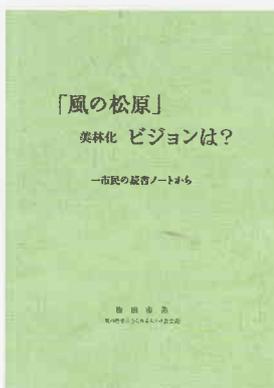
今後は能代二中、第五小、能代東中、湊城南小、湊城西小、能代一中等での展示が予定されている。



幹の観察

高所作業車から薬剤散布

本会会員が出版した労作の紹介



『風の松原』美林化
ビジョンは? 一市民の読書ノートから』
著者: 梅田市美
発行: 2008(H20)年
5月30日
<内容>

「風の松原に守られる人々の会」初代会長である梅田市美氏が、風の松原の沿革からクロマツ林の現状、風の松原の憂慮すべき点などを綴った書。



『能代砂防林の300年』

著者: 浅野ミヤ
発行: 2011(H23)年10月25日
「秋田のこだま」編集部 非売品
<内容>

2011年5月から9月まで17回にわたって「北羽新報」に掲載された記事を冊子にまとめたもの。
<1700年頃の野代><1800年頃の松原の広がり><明治・大正期(官林だけが残った)><近代の植林の始まり><戦時中の砂防林><戦後の復旧にも困難が><植林が終わってから>等。

157 松くい虫予防剤樹幹注入作業実施

平成23年3月1日、9時30分から樹幹注入作業が行われた。今年の実施場所は前号の146番の記事で紹介した越後屋太郎右衛門の松を中心とする4本。参加者25名。使用した薬剤「グリーンガード・エイト」56本の費用は「秋田県水と緑の森づくり税」の補助金で実施した。

なお、薬剤の改良により今回使用した薬剤の薬効持続期間は5年となった。樹幹注入作業が国有林以外で実施されたのは今回が初めてである。



根上り松にも注入

(注)越後屋太郎右衛門の松のある場所は市有地。「風の松原」には含まれていない。



胸高周囲3.08cmの越後屋太郎右衛門の松に薬剤を26本打ち込んだ。

161 林床改良作業の3者協定締結

4月の総会で提案していた県、浅内財産区、本会の3者による「能代市海岸保安林内における林床改良の実施に関する協定」が5月17日に締結された。

林床改良の実施場所は港湾道路からロケット実験場に曲がった地点から衛生処理場付近までの南北100メートル東西20メートル(2000平方メートル)。



林床改良の実施に関する協定 締結式

風の松原に守られる人々の会・会報 10周年記念号外 2011(平成23)年9月25日



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38 成田憲太郎方 電話 0185-52-6316

私たちは、風の松原を未来に引き継ぐことを目的とし、松くい虫予防剤樹幹注入作業、ニセアカシア萌芽除去作業、県有林の林床改良作業など、様々な活動をして10周年を迎えました。

この号外は風の松原植栽300年祭の会場だけで配布

本会が作成した風の松原案内リーフレットの紹介



A3判の用紙だが、このようにして冊子のように利用できる。

左は2002(H14)年に、右は2007(H19)年に本会が発行したリーフレット

上のリーフレットは、「秋田県水と緑の森づくり税」の助成を受け、2008(H20)年と2010(H22)年にそれぞれ5000部作成して風の松原を散策する人たちに配布した。

164 「林床改良作業」動き出す

「161林床改良作業の3者協定締結」で紹介した林床改良作業の第1回目が6月10日(金)、第2回目が6月21日(火)に行われた。参加者は第1回目は本会会員、山本地域振興局、国有林退職者協議会の方々も合わせ50名ほど参加したので、秋田魁新報や北羽新報では大きく報じていた。

第2回目は他の行事と重なったため参加者は18名。作業内容は、松原の機能や景観を守るための下草・落ち葉除去作業。膝の高さまで伸びていた下草を丁寧に抜き取っていた。

第1回目は半分程がきれいになった。第2回目は人数は少なかったが、作業に慣れてきて残り50メートルをやり遂げることが出来た。

170 風の松原先人植栽300年祭

9月25日(日)「風の松原先人植栽300年祭」の会場入口には横断幕がかかり、ステージは午前10時に淳城西小学校6年生合唱「ぼくらの松原」で幕を開けた。記念標語表彰、愛慈幼稚園児の演技や淳城南小学校スクールバンド部の演奏、第四小学校の合唱、能代一中吹奏楽部の演奏、レガートによるオカリナ演奏、能代べらぼう太鼓の演奏などが行われた。能代ミュージカル・キッズは「風の松原三百年物語」の短縮版を上演した。

広場内では本会のパネル展「近代風の松原のできるまで」が設置されたほか、鶴形そばなどくおらほのグルメ市」の屋台が並んだ。

林内ではクロマツの記念植樹や松原ガイドの会による自然散策「松原ぐるり一周」、オリエンテーリング大会などが行われた。このほかサン・ウッド能代では写真展や木工教室も行われた。

組パネル(12枚)は2009年9月完成、これまで小中学校・公共機関等32箇所で開催(H24年7月現在)。

平成24年に北羽新報「文化欄」に掲載された「風の松原」関連投稿記事のリスト

昨年後半は、風の松原植栽300年ということで、北羽新報文化欄への寄稿も多かったが、今年は7月末までに以下の5つが掲載されている。

| | | | |
|----------|-------|------------------|-----|
| 24/1/30~ | 納谷喜代松 | 「風の松原」今昔の感 | 1-4 |
| 24/2/14 | 伊藤 忠夫 | 白砂青松エリア造成と松原の将来像 | |
| 24/3/20~ | 伊藤 忠夫 | 文化遺産を守り伝える | 1-8 |
| 24/6/28 | 片村 専一 | 「風の松原」の防潮性を問う | |
| 24/7/25~ | 森澤 茂 | 風の松原を歩ける幸せ | 1-4 |

この中で伊藤忠夫氏の「文化遺産を守り伝える」の5・6回目「これでも松原か上・下」が印象的。(右図参照)

右の図は松原の混交林化や衰退状況、土壌の富栄養化を示すもの。クロマツなどの針葉樹林は④⑤などの濃緑色。95%

会報「松風」からの抜粋記事 10



(左)1回目 作業開始前の会長のあいさつと手順説明
(下)作業の様子

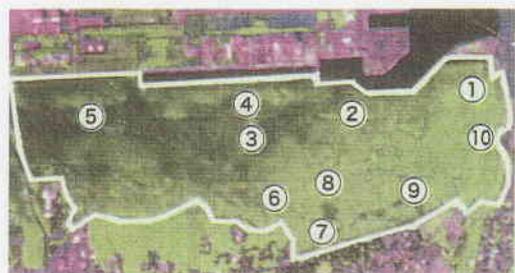


(上)2回目 作業終了の様子
(右)最後まで頑張った人たち



組みパネル「近代風の松原のできるまで」展示

が淡緑色で示した混交林。広葉樹林化により海岸線の低齢林への広葉樹の侵入が増加し、防災機能の低下が懸念されているという。



<北羽新報 平成24年6月25日掲載>



↑砂防施設(砂丘)造り始まる
1923(大正12)年 後谷地国有林



↑飛砂で埋まった大森稲荷神社鳥居
1923(大正12)年



↑わらを運ぶ



↑しばを運ぶ



↑整地作業



↑堆砂垣 3列



↑初めての埋めわら工、ついたて工
1928(昭和3)年4月植栽。昭和4年撮影
『日本海北部沿岸地方における砂防造林』より



↑わらで砂をしずめる



↑堆砂垣を造る



↑防浪垣補修のための砂運び



↑防浪垣を造る



↑かや簀で砂面を覆う

↓埋めわら工の順序（ついでに工と共に能代で考案され、各地に広まる）



①苗の根を消毒する



②植え穴を掘る



③わらを埋める



④苗(左手)を植える



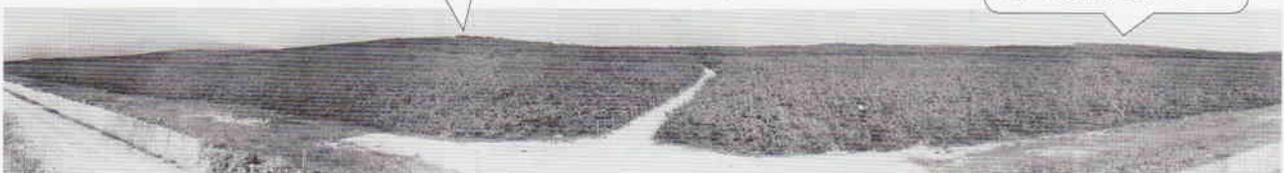
↑高校生ボランティアも活躍



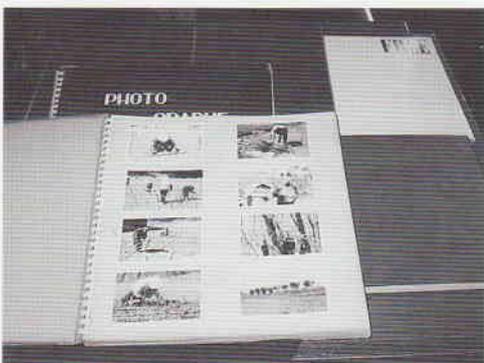
↑松苗は幾重にも守られて

大森稲荷神社

広域交流センター



↑昭和37年の様子。海岸側から大森山を望む。手前のクロマツ林は、当時、林齢30年生くらいか。写真中央は作業道3号線で、海岸に至る。



↑能代営林署時代のアルバムに貴重な写真が保存されている。

資料の写真は米代西部森林管理署の許可を得て掲載しております

元能代営林署（現米代西部森林管理署）職員鈴木重孝さん（1906－1996）が在職中に撮影した大量の写真の存在が明らかになったのは、平成11（1999）年のことであった。その数約600枚、アルバムに納められたもの、バラのもの、古いネガ等もあった。ほとんどが昭和30年代の後谷地国有林・大開浜国有林造成に関連したもので、当時の様子がよく分かる貴重なものであった。

これらの写真をもとに平成13年3月、米代西部森林管理署（当時山下秀勝署長）は写真集「風に学んで－能代海岸防災林の造成の記録－」を刊行した。

その後、当会も写真整理に協力、平成21年度には「秋田県水と緑の森づくり税」の助成を受け、組みパネル「近代風の松原のできるまで」（A1版・12枚）を作成した。組みパネルは平成21・22年度にかけて市役所・子ども館等10カ所、旧能代市公立小中学校16校を巡回展示した。平成23年9月の「風の松原植栽300年祭」では野外会場に展示、多くの人が足を止めて見入った。

※これらの写真をもとに組パネル「近代風の松原のできるまで」（12枚組）を作成しました。組パネルをご利用になりたい方は本会事務局（52－6316）へご連絡ください。

年度別会員数・会長名・被表彰事項等

| 年 度 | 会員数 | 会 長 | 特記事項 |
|-------------|-------|-------|---------------------------|
| 2001. 3. 25 | 設立総会 | | |
| 2001(平成13) | 1 1 0 | 梅田 市美 | |
| 2002(平成14) | 1 1 3 | " | |
| 2003(平成15) | 1 0 8 | " | |
| 2004(平成16) | 1 2 1 | " | 全国森林病虫獣害防除協会表彰 県環境大賞受賞 |
| 2005(平成17) | 1 4 6 | 鷺尾禮次郎 | |
| 2006(平成18) | 1 5 9 | " | |
| 2007(平成19) | 1 7 4 | " | |
| 2008(平成20) | 1 6 2 | " | 全国植樹祭で県知事から感謝状 |
| 2009(平成21) | 1 6 7 | " | |
| 2010(平成22) | 1 6 5 | " | |
| 2011(平成23) | 1 4 8 | 安井 昭彦 | |
| 2012(平成24) | 1 3 4 | " | 「みどりの愛護」で国交大臣表彰 |

会報「松風」バックナンバー目次一覧

| |
|-------------------------------|
| 001号 2001(平成13)年10月25日 |
| 1 講演会で風の松原の現状を |
| 2 黒松植林の歴史講演会 |
| 3 モデルコースの調査 |
| 4 老齢林と歴史コース調査 |
| 5 松くい虫被害調査 |
| 002号 2002(平成14)年3月20日 |
| 6 松くい虫被害調査とクリーンアップ |
| 7 総会まで(日程) |
| ◎ ついに発刊! 「風の松原ガイドマップ」 |
| ◎ 能代海岸保安林 整備の在り方について |
| 003号 2002(平成14)年8月31日 |
| 8 風の松原の小鳥の観察 |
| 9 モデルコースの整備 広葉樹の侵出状況を観察 |
| ◎ 案内人を目指した研修会 落合海岸林、日和山下コース |
| 10 地帯区分試験地の研修 |
| ◎ 県有林間伐作業 |
| ◎ 樹木名札取り付け作業 |
| 11 風の松原植物観察会 |
| 004号 2003(平成15)年1月20日 |
| 12 樹木名札の取り付け |
| 13 市民活動の歩みを語る会を開催 |
| 14 樹木名札の取り付け |
| 15 森林ボランティア |
| 16 巣箱の組み立てと取り付け |
| 17 松原のクリーンアップ |
| 18 古きを訪ねて |
| 19 アカゲラのねぐら箱を設置 |
| ◎ 商工会議所から30万円贈与される |

005号 2003(平成15)年8月31日

- 20 平成15年度総会開かれる
- 21 野鳥の水場を整備
- 22 松根掘り場跡説明板を設置
- 23 バードウォッチング
- 24 巣箱のコース整備
- 25 市民トーキング
- 26 県有林間伐地の再処理
- 27 伊藤忠夫氏と国有林散策
- 28 風の松原を守る市民ボランティア 1
- 29 風の松原を守る市民ボランティア 2
- 30 古きを訪ねて
- 31 植物観察会 樹木名札取り付け箇所

006号 2004(平成16)年1月31日

- ※28 男鹿街道 道路わきの灌木を除去
- 29 いこいの広場 周辺の灌木除去
- 30 松くい虫の被害木調査
- 30 アカゲラ休憩用の箱 組み立て作業に協力
- 31 黒松にからみつく つるきり作業
- ◎ 事務局から
- ◎ 伊藤忠夫先生の講演会 聴講ができます

007号 2004(平成16)年9月1日

- 32 平成16年度総会が開かれる
- 33 風の松原バードウォッチング
- 34 いこいの広場周辺 スギ林の灌木を除去
- 35 風の松原の土壌調査と観察会
- 36 松原保全に集合 風の松原を守る市民ボランティア大会
- 37 会の活動に奨励賞 全国森林病虫獣害防除協会から
- 38 松の根っこの掘り跡除草
- ◎ 平成16年度・後期事業計画

008号 2005(平成17)年1月10日

- ◎ 県有林灌木除去作業
- ◎ 「ごみ捨て禁止」の看板の周辺で集められたゴミの山
- ◎ 森林管理署の職員と松くい虫被害木の調査
- ◎ 台風で倒れたニセアカシアの枝を処理する作業

009号 2005(平成17)年8月25日

- 42 平成17年度総会が開かれる
- 43 風の松原バードウォッチング
- 44 風の松原を守る市民ボランティア大会
- 45 風の松原案内ガイドの依頼相次ぐ
- 46 ニセアカシアの芽欠き作業
- 47 チェンソーの使用法を学ぶ
- 48 樹種名札の取り付け

010号 2006(平成18)年2月22日

- 49 本年度2回目のニセアカシア芽欠き
- 50 「風の松原を大切に」看板設置
- 51 文化財探訪ツアーのガイドを担当
- 52 雑木除去作業
- 53 松くい虫防除シンポジウム
- 54 修学旅行ガイド
- 55 佐賀発 白砂青松が消えてゆく
- 56 豪雪の被害
- 57 大森橋架け替えによる保安林解除
- 58 生活環境保全林整備工事

011号 2006(平成18)年8月25日

- 59 松くい虫予防剤樹幹注入
- 60 平成18年度総会開催
- 61 風の松原バードウォッチング
- 62 風の松原を守る市民ボランティア大会
- 63 ニセアカシア萌芽撃退作戦
- 64 ガイド養成講座に全面的に協力
- 65 樹種名札取り付け作業

- 66 ニセアカシア萌芽撃退作戦（2回目）
 67 「風の松原近代のあゆみ」パネル展
 68 「風の松原案内」ホームページ
012号 2007(平成19年)年3月10日
 69 男鹿市の松枯れ現況視察
 70 県有林低木除去作業
 71 コウヤマキの樹種名札取り付け
 72 ニセアカシア萌芽撃退作戦（3回目）
 73 エコタウンフェスタ in 能代
 74 今年も修学旅行ガイド
 75 市長との対話
 76 象潟「九十九島の松を守る会」
 77 平成18年度 生活環境保全林整備事業
 78 松原近くの木材工場で火災
 79 松原内にトイレがほしい
 80 新版「風の松原案内」のマップ発行
013号 2007(平成19年)年8月29日
 81 平成19年度総会開催
 82 風の松原バードウォッチング
 83 風の松原を守る市民ボランティア大会
 84 講演会 森の清浄しさを探る
 85 森林浴と植物観察会
 86 第1回ニセアカシア萌芽撃退作戦
 87 樹種名札取り付け作業
 88 広報誌「んだすな」に本会が紹介される
 89 第2回ニセアカシア萌芽撃退作戦
014号 2008(平成20年)年3月10日
 90 アリ地獄の補修や林道両側の枝刈り
 91 散策路両側の刈り払い
 92 県有林低木除去作業
 93 第3回ニセアカシア萌芽撃退作戦
 94 酒田市からのお客様
 95 今年も修学旅行団
 96 「第3回 古きを訪ねて」
 97 松原学習のお手伝い
 98 生活環境保全事業の現地説明会
015号 2008(平成20年)年8月22日
 99 平成20年度総会開催される
 100 「風の松原ガイドの会」結成
 101 風の松原バードウォッチング
 102 風の松原を守る市民ボランティア大会
 103 春の自然観察会
 104 「火の用心」の立看板設置
 105 「風の松原」案内リーフレット作成
 106 本会が全国植樹祭で受賞
 107 ニセアカシア萌芽除去作業
 108 「風の松原」美林化ビジョンは？
 109 樹種名札取り付け作業
016号 2009(平成21年)年3月10日
 110 第2回ニセアカシア萌芽除去作業
 111 県有林低木除去作業
 112 風の松原に家庭ごみを不法投棄
 113 第3回ニセアカシア萌芽除去作業
 114 ニセアカシアの生態と効果的な除去方法の学習
 115 秋の「風の松原観察会」
 116 会員研修会
 117 風の松原保護協議会が発足
 118 樹幹注入作業実施
 119 「風の松原」美林化ビジョンは？
017号 2009(平成21年)年8月22日
 120 平成21年度総会の様子
 121 バードウォッチング
 122 風の松原を守る市民ボランティア大会

- 123 入会案内パンフレット完成
 124 春の「風の松原観察会」開催
 125 ニセアカシア萌芽除去作業
 126 「風の松原の歴史を学ぶ」組パネル完成
 127 植物名札取り付け作業
 128 風の松原保護検討協議会
018号 2010(平成22年)年3月30日
 129 県有林低木除去作業
 130 パネル展「近代風の松原のできるまで」(今年度8回実施)
 131 第3回 ニセアカシア萌芽除去作業
 132 ニセアカシアの生態と効果的な除去方法についての講習会
 133 秋の「風の松原観察会」
 134 会員研修会開催
 135 風の松原の復元と利用
 136 樹幹注入作業実施
 137 会員から寄せられたご意見
019号 2010(平成22年)年8月25日
 138 平成22年度総会開催
 139 バードウォッチング
 140 市民ボランティア大会
 141 春の自然観察会
 142 ニセアカシア萌芽除去作業
 143 風の松原リーフレット〔改訂版発行〕
 144 会員研修会
 145 樹種名札取り付け等の作業
 146 越後屋太郎右衛門の松に薬剤散布
 147 組パネル展示
020号 2011(平成23年)年3月30日
 148 2010. あきた水と緑の森林祭
 149 県有林低木除去作業
 150 市長とランチ
 151 虹の松原の会員と交流会
 152 秋の風の松原観察会
 153 能代第一中学校「風の松原総合学習」
 154 組パネル展示
 155 会員研修会
 156 来年度事業について検討中
 157 松くい虫予防剤樹幹注入作業実施
 158 ニセアカシア除去作業
021号 2011(平成23年)年8月25日
 159 平成23年度総会開催
 160 市民ボランティア大会
 161 林床改良作業の3者協定締結
 162 ニセアカシア萌芽除去作業
 163 風の松原連絡協議会
 164 「林床改良作業」動き出す
 165 第3回林床改良作業
 166 「能代砂防林の300年」
 167 「風の松原先人植栽300年祭」に全面協力
022号 2012(平成24年)年3月31日
 168 文化会館でパネル展開催
 169 県有林低木除去作業実施
 170 風の松原先人植栽300年祭
 171 海岸林再生植樹祭とフォーラム
 172 会員研修会「万里の松原」視察
 173 今年度最後の「林床改良作業」
 174 10周年記念「観察会」「講演会」「懇親会」
 175 今年度最後の行事「樹幹注入作業」

※ 見出し番号は創刊号からの通し番号ですが、006号で重複している箇所や◎表示で番号のない記事もあります。

今までも、これからも、松原に見守られて

元事務局員 浅野ミヤ

「風の松原を未来に引き継ぎたい」。会を立ち上げた人たちの、当初の目標はどのようなものだったのか。10年間事務局に所属しながら、主に会計を担当していたせいも、すぐには言葉にならない。ただ、初期の会長、副会長はじめ他の事務局の皆さんが、役所とのつきあいで苦勞されていたのが印象に残っている。

初代事務局代表を引き受けられた佐藤幸雄さんは、当時の思い出を次のように書き留めてくださった。「小さなボランティア団体が、大きな夢を持って活動することを目指した時に留意したことがあります。まずもって会員の意欲高揚を図らなければならないと考えました。そのためには、目に見える活動をしよう。松原を散策する人にも会員自身にも納得できるような、わかりやすい活動を心がけました。散策者の多い所のニセアカシアを切ったり、枝払いをしたことです。また、松や植物の観察会をたびたび行ったのも、松原に親しみをもってもらうためです。樹木に「名札」を付けたのは、散策する人々がその樹木名を知るとともに、いろいろな樹木が侵入してくる自然界の移り変わりを観察してほしいとの願いからです。こんな小さな活動をするにも目立たない苦勞がありました。それは、国・県・市の諸官庁の理解を得ることでした。ヘタをすると諸官庁と対立してしまうので、常に気をつかい、いかに協力・連携関係を作り上げていくかが課題になったものです。長い時間がかかりましたが、信頼できるボランティア団体に成長したと思っています。」

実は、この小冊子の編集に取りかかってほどなく、初代会長梅田市美さんの訃報に接し呆然となった。梅田さんは平成8年に病に見舞われ、その後回復され平成13年発足の当会の会長を引き受け、2期4年間献身的に務めてくださった。準備会から設立総会へ、さらに初期のこまごまとした打ち合わせ、役所との交渉等、会の基礎を築くためにどんなにか体力・神経を消耗されたことか。会長を退いてから7年間の闘病生活であった。奥様のお話によると「5月下旬、もう話す力も書く力もなく、原稿依頼の手紙を枕元で読んで聞かせると、紙に……わたし……10周年……と読める文字を書いた」とのこと。まだ話のできる時には「俺が死んだら風の松原へ連れて行ってくれ」とも話されていたそうです。最期まで当会と松原を気にかけていてくださったのだ。

思えばこの10年間「風の松原」を気にかけて亡くなられたのは梅田さんばかりではない。設立発起人に名を連ねていた梶原清治さん、田村貞美さん(当会の名付け親)、そして会員であった方たち。会員ではなかったけれどもお世話になった方たち。また、当会とは直接の繋がりはないけれども、その人の仕事の中で、あるいは暮らしの中で、人知れず松原のために力を尽くし生涯を終えた人たち。

今までそうであったように、これからも「風の松原」は多くの人の心のよりどころとなっていくことでしょう。だからこそ私たちは次の世代に引き継がねばならないのだ。

初期の当会の目標は、総会資料にあるように「会則」・「方針」として受け継がれ、この10年間変わっていない。実績を見ると実に幅広い内容で、これまでのグループでは成し得なかった分野にも取り組み実現してきた。

これからの会の運営は、過ぎた10年にこだわらず新たな目標を掲げ、会の体力、会員の体力に合わせて頑張りすぎずに続けていければ、と願っています。



ハマエンドウの群生地 (2006.6.8 大開浜)

あ と が き

「風の松原に守られる人々の会」は2001年3月、松原を健全な姿で後世に引き継ぐためのボランティア活動を志向する多くの仲間によって組織され、昨年で10周年を迎えました。

その間、日本海沿岸の松林は松くい虫の被害を受け、悲惨な状態に置かれました。風の松原も例外ではありません。毎年冬期間に伐採される被害木は驚きの数量で、本荘地区や男鹿地区の壊滅した状態と重なり、風の松原の今後に強い危機感を感じました。

風の松原は、先人が想像に絶する難業に耐え築き上げた『汗の遺産』であり、『かけがえのない財産』であります。

昨年実施した、松原再生の先進地・酒田市の『万里の松原』の実践例に見られるような、官民一体の取り組みが一日も早く動き出すことが先人への感謝であり、未来への責任と考えます。

このたび作成したパンフレット『風の松原 一守られて300年 この緑を未来へ』は、当会の10年間の活動の集大成であり、未来に向けての問題提起であります。

この冊子が、本会の今後の活動への共通理解に資し、指針となることを心から願っています。

最後になりましたが、資料収集及び編集等に多くの時間を割き、意欲的に取り組まれた浅野ミヤ氏・小林勝平氏・成田憲太郎氏の熱意とチームワークに心からの敬意を表します。また、会発足以来の会活動と会運営にご理解とご支援を頂いた会員の皆様に心から感謝申し上げます。

副会長 進 藤 日出男



21世紀に引き継ぎたい『風の松原6タイトル』に恥じない松原を!!

風の松原

守られて300年 この緑を未来へ

編集委員

安井 昭彦
進藤 日出男
浅野 ミヤ
小林 勝平
成田 憲太郎

編集・発行 風の松原に守られる人々の会
会長 安井 昭彦
連絡先 事務局 成田 憲太郎
〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38
(☎0185-52-6316)

発行日 2012年9月1日
印刷所 (有)こんどう印刷



平成24年度「秋田県水と緑の森づくり税」活用事業